

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびり」・「たのしく」・「いっしょに」の理念の下、生活の場として不安のない生活が送れる様に、利用者間のトラブルが起こらないよう、楽しく生活ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人が医療機関であり、2週に1回は医師の往診がある等、利用者の健康支援の面で心強いホームである。職員は利用者のペースや生活リズムを大切にしながら、「のんびり、たのしく、いっしょに」を理念として、ケアの実践につなげている。ホームは地元の運動会、盆踊り、祭り、敬老会等に参加し、散歩時には近所の方と挨拶を交わし、地域の清掃活動を共にしている。また、地域の住民がホームの避難訓練や餅つきに参加してくれ、幼稚園児やボランティアがホームを訪れる等、相互のつきあいが活発である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成21年 8月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念ではないが理念を揚げ、ホーム内に掲示してある。職員は理念を共有できている。	
			(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念となっている。管理者と職員は理念を玄関や居間に掲げて共有し、介護計画作成時やケアのふりかえり時の視点にすることで実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 校区や自治会の活動に参加しているが、日常的な交流には至っていない。	
			(外部評価) ホームは地域の自治会に入会し、地元の運動会、盆踊り、祭り、敬老会等に参加し、地域の清掃活動を共にやり、散歩で近所の方と挨拶を交わす等のつきあいがある。地域の方がホームの避難訓練や餅つきに参加し、幼稚園児やボランティアがホームを訪れる等の交流が活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や避難訓練を通し理解して頂こうと取り組んでいるが十分に生かされているかは解らない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 参加して頂ける方は限られているが素直なご意見を頂きながら日々の介護・支援に生かそうと取り組んでいる。	
			(外部評価) 会議ではホームの状況や行事・研修等を報告し、市から介護情報の説明等を受け、地域からは行事等の情報提供や報告があり、家族からは意見・要望が出されるなど活発な意見交換が行われ、会議での意見や情報はサービスの向上に活かしている。会議にあわせて家族会や餅つき大会を行う等、柔軟な運営を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者の対応であるが、市担当者とはグループホーム待機者情報など連絡を取り合い情報の共有を図っているが、まだまだ不十分である。	
			(外部評価) ホームは利用者の手続きや支援に関する相談等で市の担当者と日頃から連絡し合っている。また、介護に関することやホーム待機者の情報等を提供し合う関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解は出来ているが、スタッフの見守りが不十分になってしまうと判断した場合は、安全確保のため玄関を一時的に施錠等行うことがある。	
			(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は日中は鍵をかけることにしているが、利用者の状況等で一時的に施錠することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会がほとんどないが、スタッフ間で情報の共有を図り、身体的拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加する機会が殆どないため、あまり理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を充分説明、ご家族の不安の軽減を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、ご家族や地域住民の方にも参加して頂き、情報の提供とご意見を頂けるようにしている。また、面会時にも要望等を聴き反映させようとしている。  (外部評価) 利用者の要望は日頃の会話や家族からの情報で把握し、家族の意見は来訪時や介護計画作成時、運営推進会議、家族会等で把握し、運営に反映させている。また、苦情相談の窓口は外部と内部に分けて文書に明記し、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会、勉強会といった会の開催、個人面接等で意見や提案をさせて頂いている。  (外部評価) 職員の意見や提案は月1回の部署会、勉強会、業務中の気づきの表明等で把握し、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場環境、労働条件の整備改善に努めていることは感じられるが、代表者が職員のことについてどの程度把握しているかは分からない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会は与えてくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は愛媛県グループホーム連絡協議会の役員をしている関係で同業者との交流の機会は多くなっているが、他の職員は研修等への参加時くらいであり図れていない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 日々のケアの中で傾聴、見守りをし関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望にはできる限り耳を傾けさせて頂き、関係 作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 必要性を見極めて対応できていると思う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 個々のレベルに合わせて関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と連絡を取り合い、家族の意見を尊重している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 途切れないようにするのは難しいが、面会に来たとき には心地よく感じて頂き継続できるようにしている。  (外部評価) 利用者の家族、友人・知人等の来訪があった際には、 会話が弾み心地よく過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同志の関係を把握し、トラブル時は早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように気遣っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に本人や家族の方の意向をお聴きし、日々の関わりの中でも把握に努めているが、十分な対応はできていない。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日々会話や表情、家族からの情報、介護計画見直しの会議に参加した利用者の様子等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時フェイスシートをお聴きしているが、充分ではないので日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から、また、家族から聴き取りをしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り等で話し合う機会を持ち、都度対応が出来るようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人からの希望を伺うことは難しいが、ケアプランの見直しの際に家族の希望や意見を聴き取り入れている。本人主体の介護計画の作成に努めている。しかし、まだ不十分などところがある。	
			(外部評価) 利用者の担当職員が、利用者について他の職員の意見や情報も聞いた上で、利用者、家族、計画作成担当者と話し合って介護計画を作成している。介護計画は利用者等の状況に変化がある時は、都度見直し、月に1回はモニタリングを行っている。また、個人記録に介護計画のコピーを綴じ、実践につなげている。	「チームでつくる介護計画とモニタリング」の視点から、計画の作成に1人でも多くの職員が参加し、話し合いや意見交換ができるような工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に記入し、職員間で共有できているが、計画の見直しには活かせていない所もある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、ニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスの提供を心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の理・美容室を利用したり、ボランティアさんの協力を得て余暇（民謡・読み聞かせ）を楽しむ場が持てている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。かかり つけ医の受診も継続的に行い、その他においても必 要に応じて家族と相談し実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時は家族が付き添うことになっている が、対応が難しい時には職員が同行している。2週に 1回は運営主体の医療機関による往診が行われてい る。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師と相談、状況に応じ担当医に相談対処してい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご家族や主治医と相談し、できる限り継続的にかかわり ができるよう情報の提供を互いに行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 担当医、管理者、リーダー、ご家族が相談しながら進 めている。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期は運営法人の医療機関、協力医療機 関、利用者ごとのかかりつけ医等と連携を図り、これ らの医療機関で対応することにしており、このことは 早い時期から利用者や家族等に説明して同意を得てい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修は受けているが実践力には欠けている。と思われる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域との協力体制を築きながら、定期的な避難訓練を実施している。  (外部評価) 年に2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っており、訓練には消防署や地域の住民も参加している。地区消防団がホームの見学に訪れる等、災害時の地域との協力体制が確立している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保には十分に注意している。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した態度で接し、丁寧な言葉かけをしている。1人で静かに過ごしたい利用者をそっと見守り、食事の食べこぼしをさりげなく始末する等、利用者のペースを大事にしながら各々の誇りやプライバシーに配慮している。記録類は事務室で保管し、個人情報保護を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り状況に合わせて、本人の意思を尊重し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に添った支援を心掛けているが、身体状況などによっては希望に添えないこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できる限りの範囲であるが行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お手伝いをして頂いたりし、できる事を大切にしながら食事時間を大切にしている。  (外部評価) 利用者は職員と一緒にスーパー等で食材を購入し、調理の下ごしらえ、盛り付け、片付けを行っている。職員は自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守るなど、利用者のペースに合わせた食事介助を行っている。利用者の状態に合わせて刻み食にしたりトロミをつける等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状態に合わせて支援ができています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアをして頂き清潔の保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の意思を尊重しながら可能な限りトイレでの排泄を心掛けて支援している。	
			(外部評価) おむつはやむを得ず夜間のみ使用することもあるが、そのような利用者も昼間は概ね紙パンツで対応している。職員は各利用者の排泄パターンを把握し、表情やしぐさ等からも察知し、声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けているが困難な方には緩下剤を服用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴できるようにしている。一人一人の意向に添った入浴をして頂いている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるようになっている。利用者の希望に合わせて入浴の順番を配慮したり、入浴を嫌がる利用者にも声かけや対応を工夫して入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛けを行い、休息をして頂いたり、夜間は、個々に任せているが覚醒時には声掛け見守りを行い十分な休息がとれるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時にはスタッフ同士が確認を行い、誤薬することのないよう特に注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 混乱や不安を解消して頂けるよう支援しているが十分にできているか不安である。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 可能な限り支援、家族への働きかけを行っているが、日常的な面での外出等は不十分である。	
			(外部評価) 食材の購入のためにスーパーに出かけたり、近くの幼稚園まで散歩したり、時には家族と墓参りをしたり、ホームの敷地内で草ひき、外気浴、洗濯干しを行う等、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。行事で花見や紅葉狩りに行ったり、地域の運動会に参加する等の外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力や状況に応じた支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 意向に添って可能な限りして頂いている。家族からの電話には出て頂き会話をして頂いてる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) できる限り過ごしやすい工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 3ユニットとも平屋建てで、うち1ユニットが民家改造型となっている。各ユニットの居間は明るくゆったりとして、見やすい時計やテレビ、日めくり、家庭的な家具等があり、季節の花や行事の写真を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。浴室、トイレ等は気になる匂いもなく清潔感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 必要に応じてストレスにならない様に配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に必ずご家族と相談の上、必要な物、使い慣れた物を使用して頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の使い慣れたベッド、小ダンス、衣装ケース、イス、テレビ、お気に入りのぬいぐるみ、大事な家族写真等を持ち込み、心地よく過ごせる部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個々の状況に合わせて道具の使用をして頂き、常に見守りサポートをしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方との会話を多く持ち、各個人の思い、希望を聴きだし、入居者主体の生活が送れるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人が医療機関であり、2週に1回は医師の往診がある等、利用者の健康支援の面で心強いホームである。職員は利用者のペースや生活リズムを大切にしながら、「のんびり、たのしく、いっしょに」を理念として、ケアの実践につなげている。ホームは地元の運動会、盆踊り、祭り、敬老会等に参加し、散歩時には近所の方と挨拶を交わし、地域の清掃活動を共に行っている。また、地域の住民がホームの避難訓練や餅つきに参加してくれ、幼稚園児やボランティアがホームを訪れる等、相互のつきあいが活発である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 2 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 21 年 8 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を掲げ、ホーム内に掲示してある。職員は理念を念頭におき、入居者のケアに反映できるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念となっている。管理者と職員は理念を玄関や居間に掲げて共有し、介護計画作成時やケアのふりかえり時の視点にすることで実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会の行事にも参加。事業所での行事にも地域の方々の参加を呼びかけ参加して頂いている定期的に発行している『むつみ新聞』も配布し情報の提供、理解を頂いている。</p> <p>(外部評価) ホームは地域の自治会に入会し、地元の運動会、盆踊り、祭り、敬老会等に参加し、地域の清掃活動を共に行い、散歩で近所の方と挨拶を交わす等のつきあいがある。地域の方がホームの避難訓練や餅つきに参加し、幼稚園児やボランティアがホームを訪れる等の交流が活発である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、内容によっては、メンバー以外の自治会の方々にも声を掛け参加して頂き、認知症の方に対する理解や支援方法など学んで頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では事業所としての取組みを報告。参加している家族、地域住民、行政の方々のご意見を伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 会議ではホームの状況や行事・研修等を報告し、市から介護情報の説明等を受け、地域からは行事等の情報提供や報告があり、家族からは意見・要望が出されるなど活発な意見交換が行われ、会議での意見や情報はサービスの向上に活かしている。会議にあわせて家族会や餅つき大会を行う等、柔軟な運営を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者の対応であるが、市担当者とはグループホーム待機者情報など連絡を取り合い情報の共有を図っている。	
			(外部評価) ホームは利用者の手続きや支援に関する相談等で市の担当者と日頃から連絡し合っている。また、介護に関することやホーム待機者の情報等を提供し合う関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解し入居者主体のケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は日中は鍵をかけないことにしているが、利用者の状況等で一時的に施錠することもある。	職員は玄関にやむを得ず施錠する場合もできるだけ短時間になるように努めているため、今後も鍵をかけずに利用者が安全に過ごせる工夫を重ねていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間で情報の共有を図り、身体的拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加する機会が殆どないため、あまり理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を充分説明、ご家族の不安の軽減を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、ご家族や地域住民の方にも参加して頂き、情報の提供とご意見を頂けるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の要望は日頃の会話や家族からの情報で把握し、家族の意見は来訪時や介護計画作成時、運営推進会議、家族会等で把握し、運営に反映させている。また、苦情相談の窓口は外部と内部に分けて文書に明記し、家族に説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会、勉強会といった会の開催、今年度は所属長との直接面接を実施したが、十分な反映には至っていない。  (外部評価) 職員の意見や提案は月1回の部署会、勉強会、業務中の気づきの表明等で把握し、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場環境、労働条件の整備改善に努めていることは感じられるが充分とはいえない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スタッフからの希望があれば積極的に研修参加を考えているが、GH連絡協議会の主催している研修に交替で参加している。内容が限定しているように思われる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホームの相互研修等への参加を考えているが今年度は予定していない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用までの期間に本人と接する機会が少ない。利用開始してから支援の中で、ご本人との信頼関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなど記入、聴き取りの中から利用者・家族の不安や要望を理解するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族との話し合いやご本人様の言葉・行動をよく見聴きするようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人様の出来る事をして頂きながら、日々の暮らしを一緒にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 連絡を密にしながら、ご家族と一緒にご本人様を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時は、その場で気持ちのよい空間・時間を過ごして頂けるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の家族、友人・知人等の来訪があった際には、会話が弾み心地よく過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同志の関係を把握し、トラブル時は早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように気遣っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、お会いした折など、ご挨拶を交わしたりするが、個人情報の関係もあり配慮が必要である。ご家族の相談に対しては随時受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に本人や家族の方の意向をお聴きしており、日々の関わりの中で把握に努めている。  (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日々会話や表情、家族からの情報、介護計画見直しの会議に参加した利用者の様子等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時フェイスシートを参考にし、ご本人との会話の中から、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方や心身状態を把握しケア・支援に活かせるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人からの希望を伺うことは難しいが、ケアプランの見直しの際に家族の希望や意見を聴き取り入れている。本人主体の介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員が、利用者について他の職員の意見や情報も聞いた上で、利用者、家族、計画作成担当者と話し合って介護計画を作成している。介護計画は利用者等の状況に変化がある時は、都度見直し、月に1回はモニタリングを行っている。また、個人記録に介護計画のコピーを綴じ、実践につなげている。	「チームでつくる介護計画とモニタリング」の視点から、計画の作成に1人でも多くの職員が参加し、話し合いや意見交換ができるような工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別カルテや週間介護計画表に記入を行い、細かな会話等を記録し職員間の情報の共有を図っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 受診の付き添いや本人希望の外出等柔軟な対応を心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問もあり、自治会の敬老会、盆踊り、住民運動会等に参加し、いろいろな方と触れ合いながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができる。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族の希望する医療機関を受診している。 ご家族が受診に同行できない時は職員が代行してい る。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時は家族が付き添うことになっている が、対応が難しい時には職員が同行している。2週に 1回は運営主体の医療機関による往診が行われてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置し入居者の状態の変化に対して対応して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者の身体状況に応じて家族と相談、入退院の支援 を行っている。入退院時には相互に情報提供を行い本 人のケアに繋げている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時また状態の変化に応じて、その都度、家族への 説明はしているが、事業所の考え方とご家族の思いの 差がある。	
			(外部評価) 重度化や終末期は運営法人の医療機関、協力医療機 関、利用者ごとのかかりつけ医等と連携を図り、これ らの医療機関で対応することにしており、このことは 早い時期から利用者や家族等に説明して同意を得てい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 一年に数回の訓練は実施しているが、実際の急変時の対応には不安がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の住民も参加して頂き定期的に避難訓練をに実施している。  (外部評価) 年に2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っており、訓練には消防署や地域の住民も参加している。地区消防団がホームの見学に訪れる等、災害時の地域との協力体制が確立している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様の人格の尊重は職員一人一人が常に心掛け支援している。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した態度で接し、丁寧な言葉かけをしている。1人で静かに過ごしたい利用者をつと見守り、食事の食べこぼしをさりげなく始末する等、利用者のペースを大事にしながら各々の誇りやプライバシーに配慮している。記録類は事務室で保管し、個人情報保護を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で希望を聴いたり、ご本人が選ぶことの出来る場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースは大切にしているが時に業務を優先してしまうことがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 各自が使い慣れた化粧品を使用したり、ご本人の力量に合わせた身だしなみの支援を行っている。理美容は近所の馴染みの店を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備・片付けなど、する人しない人と偏りはあるが個々の状況を見ながら継続して行っている。  (外部評価) 利用者は職員と一緒にスーパー等で食材を購入し、調理の下ごしらえ、盛り付け、片付けを行っている。職員は自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守るなど、利用者のペースに合わせた食事介助を行っている。利用者の状態に合わせて刻み食にしたりトロミをつける等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量については、入居者個々により差はある。個々の嗜好に合う物を提供し、十分な水分が摂取できるように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛け、実施をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各自の力量・状況に合わせて紙パンツ、パットを使用しているがトイレ誘導し、可能な限りトイレでの排泄支援をしている。	
			(外部評価) おむつはやむを得ず夜間のみ使用することもあるが、そのような利用者も昼間は概ね紙パンツで対応している。職員は各利用者の排泄パターンを把握し、表情やしぐさ等からも察知し、声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事には野菜を多く取り入れ、便秘の予防に努めている。また、日中の散歩等の運動を取り入れているが必要に応じて緩下剤を使用している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の時間帯は決まっているが、ご本人の希望、心身の状況に応じた入浴支援を行っている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるようになっている。利用者の希望に合わせて入浴の順番を配慮したり、入浴を嫌がる利用者にも声かけや対応を工夫して入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) できる限り、ご本人の状態に合わせて休息が取れるようにしているが、見守りが必要な方に対する休息の支援は難しくあまりできていない。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 効能、副作用すべてを理解できていないが、入居者の方の状態の変化は注意深く観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持っている事を理解し、場面に応じた支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物や散歩等、ご本人の希望に応じて支援、気分転換を図っている。	
			(外部評価) 食材の購入のためにスーパーに出かけたり、近くの幼稚園まで散歩したり、時には家族と墓参りをしたり、ホームの敷地内で草ひき、外気浴、洗濯干しを行う等、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。行事で花見や紅葉狩りに行ったり、地域の運動会に参加する等の外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者の中には盗られ妄想があるため所持はしていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りは行っていないが、電話は自由にできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節季節の花を飾ったり心の落ち着く空間作りに努めている。	
			(外部評価) 3ユニットとも平屋建てで、うち1ユニットが民家改造型となっている。各ユニットの居間は明るくゆったりとして、見やすい時計やテレビ、目めくり、家庭的な家具等があり、季節の花や行事の写真を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。浴室、トイレ等は気になる匂いもなく清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自、落ち着く場所があり、それぞれが自分たちのペースで過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れたものを使用したり、ご本人、ご家族の思いの空間を作って頂いている。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れたベッド、小ダンス、衣装ケース、イス、テレビ、お気に入りのぬいぐるみ、大事な家族写真等を持ち込み、心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) もともと軽度の認知症高齢者の受け入れを考慮して作られているため、現在の入居者の高齢化、機能低下からするとハード面の不備があるので安全には充分注意している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 21年 8 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんが常に笑顔で安心して生活して頂ける様に、いつも笑顔を決やらず、声掛け会話の時間を多く取れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人が医療機関であり、2週に1回は医師の往診がある等、利用者の健康支援の面で心強いホームである。職員は利用者のペースや生活リズムを大切にしながら、「のんびり、たのしく、いっしょに」を理念として、ケアの実践につなげている。ホームは地元の運動会、盆踊り、祭り、敬老会等に参加し、散歩時には近所の方と挨拶を交わし、地域の清掃活動を共に行っている。また、地域の住民がホームの避難訓練や餅つきに参加してくれ、幼稚園児やボランティアがホームを訪れる等、相互のつきあいが活発である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 3 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日 年 月 日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を基本に職員の意識づけをし、実践につなげている。	
			(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念となっている。管理者と職員は理念を玄関や居間に掲げて共有し、介護計画作成時やケアのふりかえり時の視点にすることで実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、校区や自治会の活動に参加しているが、事業所の行事にも案内し交流を深めているが、日常的な交流には至っていない。	
			(外部評価) ホームは地域の自治会に入会し、地元の運動会、盆踊り、祭り、敬老会等に参加し、地域の清掃活動を共にを行い、散歩で近所の方と挨拶を交わす等のつきあいがある。地域の方がホームの避難訓練や餅つきに参加し、幼稚園児やボランティアがホームを訪れる等の交流が活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、地域の方を含めた学習会を行ったりしている。グループホームの理解を深めて頂くためにも継続したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方の声や会議メンバーからの声に耳を傾け、サービスの向上に活かしたい。	
			(外部評価) 会議ではホームの状況や行事・研修等を報告し、市から介護情報の説明等を受け、地域からは行事等の情報提供や報告があり、家族からは意見・要望が出されるなど活発な意見交換が行われ、会議での意見や情報はサービスの向上に活かしている。会議にあわせて家族会や餅つき大会を行う等、柔軟な運営を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者の対応であるが、市担当者とはグループホーム待機者情報など連絡を取り合い情報の共有を図っている。また、運営推進会議に参加している行政担当者からいろいろ情報を頂いたりでき、少しずつではあるが連携が取れている。	
			(外部評価) ホームは利用者の手続きや支援に関する相談等で市の担当者と日頃から連絡し合っている。また、介護に関することやホーム待機者の情報等を提供し合う関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束の内容を理解は出来ている。スタッフの見守りが不十分になったりする場合、安全確保のため玄関を一時的に施錠等行うことがある。	
			(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は日中は鍵をかけないことにしているが、利用者の状況等で一時的に施錠することもある。	職員は玄関にやむを得ず施錠する場合もできるだけ短時間になるように努めているため、今後も鍵をかけずに利用者が安全に過ごせる工夫を重ねていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会がほとんどないが、スタッフ間で情報の共有を図り、身体的拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) いままで成年後見人制度を必要とするケースがないため充分理解ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を充分説明、ご家族の不安の軽減を図っている。入居者の状態の変化に応じて契約の解除になるときも家族との話し合い支援を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、ご家族のご意見に耳を傾け言葉や態度で察する努力をしている。介護相談員の方も訪問してくれるようになり意見を頂けるようになった。ご家族の方とは定期的に話し合いをもちご意見を頂いている。	
			(外部評価) 利用者の要望は日頃の会話や家族からの情報で把握し、家族の意見は来訪時や介護計画作成時、運営推進会議、家族会等で把握し、運営に反映させている。また、苦情相談の窓口は外部と内部に分けて文書に明記し、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 入居者関係については職員の意見を尊重し取り入れてくれている。管理者に業務、運営に関しては意見を伝えるようにしているがどの程度伝わっているかは疑問である。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や提案は月1回の部署会、勉強会、業務中の気づきの表明等で把握し、ホームの運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職場環境、労働条件の整備改善に努めていることは感じられるが、不十分である。代表者が職員のことについてどの程度把握しているかは分からない。勤務時間が長くなるためストレスを感じている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定期的に研修会に参加、研修を受ける機会を与えてくれている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者は愛媛県グループホーム連絡協議会の役員をしている関係で同業者との交流の機会は多くなっているが、他の職員は研修等への参加時くらいであり図れていない。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に事前面接をしたり、家族、関係事業所からの情報を頂いたりしている。また、日々のケアの中で傾聴、見守りをし関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望にはできる限り耳を傾けさせて頂き、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 日常生活全般において支援が必要で、必要性を見極めて対応できていると思う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 馴れ合いになってはいけませんが、家族の気持ちになって個々のレベルに合わせて関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と連絡を取り合い、家族の意見を尊重している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 特に面会制限もなく、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気、心地よく感じて頂けるよう心掛けている。  (外部評価) 利用者の家族、友人・知人等の来訪があった際には、会話が弾み心地よく過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同志の馴染みの関係ができて助け合う様子も見られる。関係を把握し、トラブル時は早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように気遣っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。退去後はあまり交流はない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に本人や家族の方の意向をお聴きし、日々の関わりの中でも把握に努めている。  (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日々会話や表情、家族からの情報、介護計画見直しの会議に参加した利用者の様子等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時フェイスシートをお聴きしているが、充分ではないので日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から、また、家族から聴き取り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り等で話し合う機会を持ち、都度対応が出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に介護計画の見直しをし6ヶ月に1度は家族や入居者さんも交えてカンファレンスをしている。家族や本人の意見は取り入れたケアが実践できるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員が、利用者について他の職員の意見や情報も聞いた上で、利用者、家族、計画作成担当者と話し合って介護計画を作成している。介護計画は利用者等の状況に変化がある時は、都度見直し、月に1回はモニタリングを行っている。また、個人記録に介護計画のコピーを綴じ、実践につなげている。	「チームでつくる介護計画とモニタリング」の視点から、計画の作成に1人でも多くの職員が参加し、話し合いや意見交換ができるような工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や実践、結果、気づきが工夫され個別記録に記入でき、毎日、週間予定にも具体的に記入でき、職員間で共有できている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族との話し合いを充分に行い、本人や家族の状況、ニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスの提供を心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 入居者の方が安心して楽しく生活ができるよう周辺施設(保育園)自治会、ボランティアなどの支援を頂きながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。かかり つけ医の受診も継続的に行い、その他においても必 要に応じて家族と相談し実施している。状況に応じて 職員が受診支援も行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時は家族が付き添うことになっている が、対応が難しい時には職員が同行している。2週に 1回は運営主体の医療機関による往診が行われてい る。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員も体調管理をこまめに行い、看護師と相談、 状況に応じ担当医に相談対応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご家族や主治医と相談し、できる限り継続的にかかわり ができるよう情報の提供を互いに行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 担当医、管理者、リーダー、ご家族が相談しながら進 めている。医療機関との連携をとっている。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期は運営法人の医療機関、協力医療機 関、利用者ごとのかかりつけ医等と連携を図り、これ らの医療機関で対応することにしており、このことは 早い時期から利用者や家族等に説明して同意を得てい る。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修は受けているが実践力には欠けている。と思われる。職員は常に不安を感じている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域との協力体制を築きながら、定期的な避難訓練を実施している。  (外部評価) 年に2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っており、訓練には消防署や地域の住民も参加している。地区消防団がホームの見学に訪れる等、災害時の地域との協力体制が確立している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 希望や願いをできる限り汲み取るようにしている。プライバシーの確保には十分に注意している。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した態度で接し、丁寧な言葉かけをしている。1人で静かに過ごしたい利用者をもっと見守り、食事の食べこぼしをさりげなく始末する等、利用者のペースを大事にしながらかの誇りやプライバシーに配慮している。記録類は事務室で保管し、個人情報保護を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り状況に合わせて、本人の意思を尊重し支援している。自己決定できない方は、職員がその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活リズムを大切に支援できるように努力しているが、時に業務を優先してしまうことがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と話し合い、その人の状況に応じた身だしなみ・おしゃれをしてもらっている。できる限りの範囲であるが行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 雰囲気作りに注意している。(音楽をかけたり会話をしながら季節に併せた雰囲気作りを行っている。) テツダイノできる人は負担にならないように注意しながら行っている。 (外部評価) 利用者は職員と一緒にスーパー等で食材を購入し、調理の下ごしらえ、盛り付け、片付けを行っている。職員は自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守るなど、利用者のペースに合わせた食事介助を行っている。利用者の状態に合わせて刻み食にしたりトロミをつける等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量を記入、不足しないよう考慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアをして頂き清潔の保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の意思を尊重しながら可能な限りトイレでの排泄を心掛けて支援している。	
			(外部評価) おむつはやむを得ず夜間のみ使用することもあるが、そのような利用者も昼間は概ね紙パンツで対応している。職員は各利用者の排泄パターンを把握し、表情やしぐさ等からも察知し、声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けているが困難な方には緩下剤を服用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴できるようにしている。一人一人の意向に添った入浴をして頂いている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるようになっている。利用者の希望に合わせて入浴の順番を配慮したり、入浴を嫌がる利用者にも声かけや対応を工夫して入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛けを行い、休息をして頂いたり、夜間は、個々に任せているが覚醒時には声掛け見守りを行い十分な休息がとれるよう支援している。その人のペースに合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時にはスタッフ同士が確認を行い、誤薬することのないよう特に注意している。医療関係者と連携を密にし、情報の共有に努め症状の変化に対して対応できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 負担にならないよう、出来る事はして頂き、時には図書館、買い物などに外出している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望時には職員が同行し外出している。日常的な面では家族、地域の方の協力と不十分である。	
			(外部評価) 食材の購入のためにスーパーに出かけたり、近くの幼稚園まで散歩したり、時には家族と墓参りをしたり、ホームの敷地内で草ひき、外気浴、洗濯干しを行う等、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。行事で花見や紅葉狩りに行ったり、地域の運動会に参加する等の外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事業所で管理している。入居者の買い物等については必要に応じて行い、家族の了解は取っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 意向に添って可能な限りして頂いている。家族からの電話には出て頂き会話をして頂いてる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の状況にあった環境作り、できる限り過ごしやすい工夫をしている。	
			(外部評価) 3ユニットとも平屋建てで、うち1ユニットが民家改造型となっている。各ユニットの居間は明るくゆったりとして、見やすい時計やテレビ、日めくり、家庭的な家具等があり、季節の花や行事の写真を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。浴室、トイレ等は気になる匂いもなく清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが共有空間になっているが、すべての方にとって安心して落ち着く空間ではない。必要に応じてストレスにならない様に配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に必ずご家族と相談の上、必要な物、使い慣れた物を使用して頂くようにしている。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れたベッド、小ダンス、衣装ケース、イス、テレビ、お気に入りのぬいぐるみ、大事な家族写真等を持ち込み、心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況に合わせて道具の使用をして頂き、常に話し合い、見守りサポートをしている。	